



葉から降り注ぐ木漏れ日が表現された、うめきた地下口改札内コンコースの間接照明

JR大阪駅(うめきたエリア)

関西鉄道ネットワークの核となる大阪駅の新たな地下ホームが誕生

大阪駅北側の再開発地区「うめきた2期」では、周辺地域との一体的なまちづくりが進められている。その西側を縦断していた東海道線支線(約1.7km)を地下化し、2023年3月に大阪駅(うめきたエリア)が誕生した。うめきたエリアのデザインコンセプトは幾重にも折り重なる葉から降り注ぐ「こもれび」。ここは大阪駅のホームを延伸して西側に新設された西口と地下通路で結ばれており、西口の空間は水都大阪をイメージしたデザインで構成され、照明計画にも波紋など、水を想起させる意匠が採用されている。

JR西日本は、うめきたエリアをイノベーションの実験場「JR WEST LABO」の中心と捉え、さまざまなパートナーと共創することでオープンイノベーションを加速させようと試みている。地下ホームでは、デジタル技術を活用したインタラクティブな空間や、あらゆる列車のドア位置に対応するフルスクリーンタイプのホームドアが設置された。この大阪駅(うめきたエリア)の誕生により、関西国際空港や和歌山方面への利便性が飛躍的に向上。大阪では市内を南北に縦断する新線「なにわ筋線」構想があり、この地下ホームに接続される予定で、鉄道交通の結節点としての重要性がより高まると期待されている。

JR大阪駅(うめきたエリア)

所在地/大阪市北区大深町
 事業主/西日本旅客鉄道株式会社
 設計/ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社
 施工/大鉄工業・清水建設特定建設工事共同企業体
 オープン/2023年3月

■JR大阪駅(西口改札)
 所在地/大阪市北区梅田
 事業主/西日本旅客鉄道株式会社
 設計/(監修)東環境・建築研究所
 ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社
 施工/大鉄工業株式会社
 竣工/2027年春頃
 オープン/2023年3月(暫定使用開始)



地下ホームのフルスクリーンタイプのホームドアとグレアを感じさせない中央の建築化照明



乗降客の足を照らす黄色い点字ブロック上のライン照明



壁面に建築化照明、天井はスリムベースライトが採用された、うめきたエリアと西口を結ぶ連絡通路



時間によって光色が変化する波紋を意匠化した照明(西口改札外)



難波橋や戎橋など、大阪の4つの橋をイメージした内照式照明柱(西口改札内)



波のデザインが採用されたエスカレーター部照明(西口改札内)

大阪駅北地区のうめきたエリア



主な納入設備

- LEDベースライト
- LEDダウンライト
- LEDスポットライト
- LED建築化照明